

発表形式：口頭発表

希望部会：7-1 肥料および施肥法

福島県伊達市における畑ワサビへの放射性セシウム吸収抑制対策(その1)-山林内における畑ワサビへの放射性セシウム吸収抑制対策試験-

稲垣 開生^{1,2}, 前原 瞳^{1,3}, 大島 宏行¹, 数又 清市⁴, 後藤 逸男¹¹ 東京農大, ² 現在、産業振興(株), ³ 現在、福島県, ⁴ JA ふくしま未来

演者らは福島第一原子力発電所の事故後、水稲の放射性 Cs 吸収抑制対策に、転炉スラグ、カリ肥料、ゼオライトの効果に着目し報告した。そこで水稲の効果を活用し、出荷制限される畑ワサビで上記3つの対策によるCs吸収抑制効果を検討した。畑ワサビは日陰を好み、主に山林内で栽培される。山林内の圃場2地点で、深さ5cm毎に放射性Csを分析した。表層5cmで1万Bq/kg超に対し、下層ではその1/10以下となった。土壌pHは5と酸性化していた。在圃株の放射性Cs強度は最大で地上部460Bq/kg、根部790Bq/kgであった。

転炉スラグ：0.5t/10a、塩化カリ：30kg/10a、多量：60kg/10a、ゼオライト：1t/10a、多量：2t/10aを用いて、無改良区、区、+区、++区を設け、基肥N:P₂O₅:K₂O=15:15:30kg/10a施用し、放射性Cs非汚染プラグ苗を定植した。全区を被覆し、一部に被覆無・資材無施用区を設けた。また、無底塩ビ管を用いてカリおよびゼオライト施用量の違いによる効果を検証した。無改良区、区、区、+区、++区、++多量、+多量、+多量+区、+多量+多量区を設けた。この際、塩ビ管上部を被覆し下部にCs吸着資材を敷設し、水などCsの影響を除去した。無被覆区と比較し、被覆区および転炉スラグ施用区で草丈が大きく、生育良好であった。全区で放射性Cs強度が食品基準値以下となったが、各資材施用の関連性は不明瞭であった。地上部の放射性Cs強度が根部より高く、被覆材の放射性Cs強度(900Bq/kg)と高いことから、落葉、降雨による影響が考えられた。

ワサビ栽培の再興に向けて、放射能対策に放射性Cs非汚染苗の新植が不可欠である。さらに土壌環境を改善し生育を向上させるために酸性改良の施用が必要である。また、山林内で降雨による汚染の影響が懸念されるため、平地での被覆材を用いた遮光栽培を行うべきである。

登録日時：2016/06/24：15：37：29

このpdfは登録内容を確認するためのものです。書体、文字サイズ、改行位置などレイアウトに関することは実際の印刷物とは異なります。

日本語のテキストでイタリックを指定した場合、このPDFではボールドのゴシック体での表示となります。

実際の講演要旨集ではイタリックとなりますのでご安心ください。